

西南学院小学校 学校長メッセージ

「学校通信 Wings 2021年2月号」

「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存在するからです。」

コリントの信徒への手紙二 4章 18節

あつという間に1月が終わり2月に入りました。今年は立春も1日早く、2月に入ると梅のたよりが届き始めますが、いつものようには春が来る喜びを感じるのが難しいかもしれません。2月初めに予定していた個人懇談も、本当に申し訳ありませんでしたが中止せざるを得なくなりました。この先の行事についても見通せない状況です。

そんな中、朝日新聞に、アメリカの第46代大統領に就任したジョセフ・ロビネット・バイデン・ジュニア氏の就任演説の一部を紹介する記事が掲載されていました。

結束について話すことは、いくぶん愚かな空想に聞こえるかもしれないのは分かっています。私たちを分断する力は強く、現実にあることを知っています。

しかし、私はそれらが新しいものではないことも知っています。全ての人が生まれながらに平等だという米国の理想と、人種差別や移民排斥主義、恐怖、悪者扱いすることが、長い間私たちを引き裂いてきたという過酷で醜い現実の絶え間ない闘いが私たちの歴史だったのです。

闘いは何度も繰り返され、勝利は確実ではありません。南北戦争や大恐慌、世界大戦、9.11同時多発テロを経て、そして闘争や犠牲、挫折を経て、私たちの「より良い天使たち(良心)」が常に勝利してきました。それぞれの瞬間で、私たち全てを前進させるために十分な人たちが集いました。

演説で述べられているのは、アメリカ社会の深刻な分断についてですが、言葉を置き換えることで、私たちをも力づけるメッセージとなるのではないのでしょうか。演説はこう続きます。

「そして私たちは今、そうすることができます。歴史や信仰、理性はその方法を示しています。」(朝日新聞より)

読んだとき、「わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。希望はわたしたちを欺くことはありません。」(ローマの信徒への手紙5章3～5節)という聖書の一節を思い浮かべました。

ところで話は変わりますが、校長室の廊下側の棚には毎月いろいろなものを置いています。

そこには、科学的への関心を高めるようなものをできるだけ一つは入れるようにしています。

今月のメインは「Drinking Bird(水飲み鳥)」。ご存じでしょうか。私が子どもの頃はデパート

で売っていました。ただ、今はほとんど見ることはないようで、何人かの先生に聞いてみても

見たことがないということでした。祖父母の方なら懐かしいと思われる方もいらっしゃるかもしれ

ませんね。構造が単純なわりには使われている原理はなかなかのもので、子どもたちにも分かるように

説明文を書くのに苦労しました。直接的な指導はできませんが、いろいろな方法で子どもたちの知的好

奇心や意欲を高めていきたいと思っています。参観や懇談などが再開し来校できるようになったら、どん

なものが置いてあるかご覧になってください。今年度も残り2ヶ月、どうかよろしく願います。

(文責 宮崎隆一)

